

特集 夢を追いつづけた男 十河信二

現代社会のインフラとしてなくてはならない新幹線。
初めて走ったのは、1964年のことでした。
東海道新幹線実現の立役者は西条市長も務めた十河信二（以下、十河または信二）。
明治から昭和にかけての激動の時代に情熱と信念で、
新幹線建設という夢を実現させた彼は一体どんな人物なのでしょう。



新幹線の生みの親

そごう しんじ
十河 信二

(1884～1981)

新居浜市中萩出身、現西条高校卒、東京帝大法学部卒。
第2代西条市長を経て、1955年に第4代国鉄総裁に
就任し、東海道新幹線の建設を実現。
西条市名誉市民第1号。享年97歳、今年は生誕140年。



▲明治時代の西条中学（現在の西条高校）

学生時代からエリート

旧制西条中学（現在の西条高校）に入学した信二。中萩から約10キロの道のりを歩いて通学しました。卒業のときには、校長先生から「お前くらいわがままで強情な人間はいない」と言われるほど、学生時代から頑固な性格でした。
卒業後は東京にある難関の三高（旧制第一高等学校）、東京帝大法学部（現在の東京大学）に進学。超エリートであった信二に田舎では花嫁候補がたくさぬいましたが、2年生のときに東京音楽大学（現在の東京芸術大学）に通っていたキクと出会い、信二が一目惚れ。学生結婚しました。

初めは農商務省を目指していた信二。あるとき、

鉄道院に勤めていた同郷の先輩、松木幹一郎から鉄道院総裁の後藤新平に会うように指示されました。後藤に会うと「これから鉄道時代の時代。成績が5番以内になれば採用してやる」。当時、成績が真ん中くらいであった信二は猛勉強し5番以内に。後藤に認められた信二は鉄道院に入り、のちに戦前の日本はコストを理由にレールの幅が狭い線路（狭軌）が主流。しかし後藤は「大量輸送の時代には、大型機関車が必要」と線路を広く（広軌）して、物流スピードを優先させる考えを主張し、十河はその賛同を受けました。狭軌が広軌かの論争は何度も繰り返されましたが1918年、内閣総理大臣の原敬が「欧米のように長距離輸送する必要なし」と主張

し、広軌案はつぶされました。その後、突然の収賄事件をきっかけにえん罪で逮捕された信二。鉄道省をクビになり、勾留期間は97日にも及びました。

親友の種田虎雄（のちに近鉄の社長）は仕事も収入もない信二に給料の半分を渡していたとされています。1930年には、種田の説得もあって、満鉄南満州鉄道株式会社）の理事となり、鉄道の経営にあたりました。満州では高速機関車、通称「弾丸列車」が走っていて、それが新幹線構想のベースとなりました。

郷土の偉人はつながっていた

松木幹一郎からの紹介で、後藤新平との関係性を強めた十河。同郷のつながりは、ほかにも。十河が日本国有鉄道（以下、国鉄）の総裁を務めたころ、同郷の後輩で近畿日本鉄道（近鉄）社長の佐伯勇が「国鉄が保有する鉄橋を使わないなら利用させてほしい」と十河の元へ直談判を行い、譲渡の了承を取り付けました。この佐伯の行動は、近鉄の悲願、ゲージ統一実現への大きな一歩となりました。

日本の歴史の中で、西条市の偉人である十河、松木、佐伯の3人は直接ないし、間接的に関わり合っていたのです。

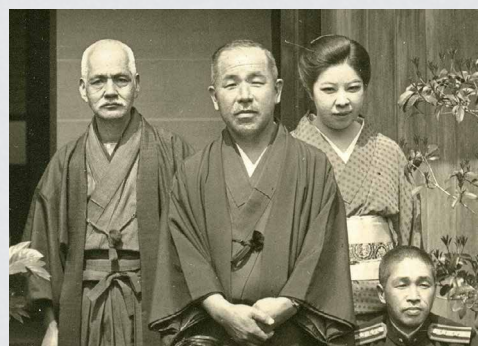


上：27歳のときに1年間志願兵に（中段右から2人目が十河）

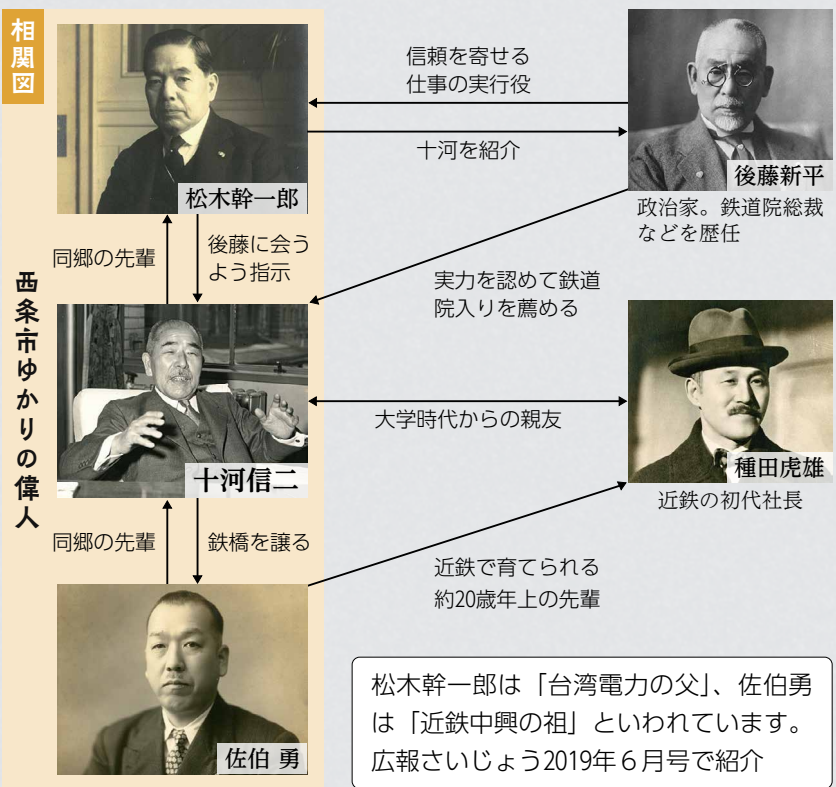
下：広軌改築実験の様子

無報酬で西条市長に

1945年、西条市長を務めた十河。そのときの条件が「郷土のためなので給料はいらない」「国からの用があったらやる」「誰かの反対があるならやめる」でした。わずか一年未満でしたが、河川の治水や農地造成、学校教育に力を入れ故郷の礎をつくりました。



▲西条市長のころ。61歳



71歳で国鉄
総裁に就任8年間諦めず
走り続けた

1955年、国鉄で事故が重なり窮地に陥った頃、71歳で「線路を枕に討死する覚悟」という強い意志を持って、第4代国鉄の総裁を引き受けました。高齢の十河は「博物館から引っぱり出された古機関車」と揶揄されましたが、就任当初から「広軌新幹線を建設する」という大きな夢を持っていました。当時は飛行機や自動車の時代だという反対意見が多く、世論も冷やかでしたが十河は諦めません。国鉄内部で広軌新幹線計画に理解を示さない技師長を

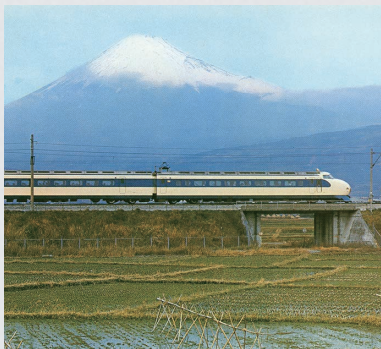


▲新丹那トンネル熱海口で新幹線起工式

更迭。優れた技術者の島秀雄をスカウトし、理解者を集めてチームを作ります。最終的には国家的課題として政府指示の形で東海道新幹線の実現が決まりました。

夢の超特急
ひかり号

1964年10月1日、ついに東海道新幹線が開通。しかし、建設予算超過の責任を負う形で開通前に国鉄総裁を辞任したため、テープカットに十河の姿はありませんでした。新幹線の名前は「ひかり」に決定しましたが、応募作には「そごう号」という案もたくさんあったといひます。十河がいなければ日本が世界に誇る安全で快適な新幹線の鉄道システムはなかったに違いありません。



▲東海道新幹線「ひかり号」

現在の新幹線路線地図



東京駅で見守る信二

東海道新幹線の18番・19番ホームには、十河のレリーフを埋め込んだ記念碑があります。当時レリーフを見た信二は、「似とらん」と不満だったと伝えられています。

激動の人生を支えた妻キク
葬儀で「さよならっ」と叫んだ信二

▲妻キクとの最後の1枚

指を赤いひもで結び「何かあれば引っ張りなさい」というエピソードも、キクの前では仕事の話を一切しなかった信二。キクはもともと信二のことを理解していたそうです。生涯2人は寄り添い、愛し合いました。



十河さんと関わりのある方や詳しく知る方にお話を伺いました。

私にとっての
十河さん

つだゆみさん

西条市出身。漫画家。書籍「夢の超特急ひかり号が走った 十河信二伝」を手掛ける。

もしお会いできたら、感謝の気持ちを伝えたい

こんなに偉大な先輩がいらっしやることに、同窓としての誇りを感じました。と同時に漫画の依頼をいただくまで、実は十河さんをほとんど知らなかった。西条高校同窓にしっかりと伝えていくべきだと感じました。

感動したのは、晩年、妻のキクさんの闘病を支えたエピソード。国鉄総裁として忙しい時期だったのに、毎日食事を作り、寝るときは指を赤いひもで結んで、何かあったら引っ張りなさいと言ったといひます。

十河さんがいなかったら新幹線は走っていません。また新幹線の成功に触発されて、世界の高速鉄道が発展しました。十河さんの偉業は世界の鉄道も復活させたのです。カミナリ親父と言われていますが、愛情が深く本のために尽くした人です。

自分より国民のことを考える、海のように大きい人



あきら 原 朗さん

歴史・経済学者。東京大学名誉教授。十河信二が郷土に託した資料を調査・研究。

30代の頃、研究で満鉄のことを調べるために、満州経済調査会の委員長であった十河さんの存在が欠かせなかった。それが研究を始めたきっかけです。関東軍（日露戦争後に中国関東州に駐屯した軍事組織）と手を組

むなど普通の人ではできない。それだけ包容力が大きい、「大物」ですね。「十河」さんより「十海」さんかな。何かやろうとしてうまくいかないことが多い十河さんでしたが、たった一つうまくいったのが東海道新幹

線。世界全体の鉄道が斜陽産業に入る時代だったけど、それを十河さんが新幹線開通によって一変させました。十河さんに会えたら「あなたは70代に新幹線を作り上げて大変偉い。私は85歳で50年に一度の『鉄道百五十年史』を作るのに必死なんですよ」とご報告しようか。

計り知れない原動力。とにかくすごかった



こうへい 十河 光平さん

十河信二の孫（四男和子の長男）。幼少期は十河信二と同居。77歳。

当時は秘書の方がよく怒られていたのを覚えています。とても迫力のある声でした。孫には優しくした。私は模型などを作るのが好きだったので、よく作品を見せに行きました。私のことを「技師長」って呼ん

でくれたのが一番の誇りですね。祖父は趣味のない人で、大体やることといったら、新聞、雑誌、各局のニュースを見る、そればかりでした。よく言われたのは「他の人のことも考えなさい」と。例えば共用のスリッ

パを使ったら揃えておくとか。その教えは私自身、今でも大事にしています。新幹線のベースを作った祖父を一言で表すと「気骨」のある人。自身のことより日本のことを常に考えていた。自分の信念に従い、どんな苦難にも立ち向かった強い精神力は只々すごいと思います。

合併20周年記念事業・NHK朝ドラ誘致関連事業

シンポジウム「十河信二と妻キクの愛情物語」

7月14日(日) 13時30分～ in 総合文化会館

▶プログラム

基調講演 講師：高橋団吉（作家。著書「新幹線をつくった男など」）

シンポジウム

司会：眞鍋かをり（西条市出身。タレント。LOVE SAIJO応援大使）

パネリスト：つだゆみ、高橋団吉、富吉将平（愛媛人物博物館担当学芸員）、
加藤圭哉

特別出演 十河光平、道前太鼓、十河城鉄砲隊 龍雲相撲甚句会

▶入場方法 入場無料 ※整理券が必要。総合・丹原文化会館などで配布しています

▶問合せ 市庁舎新館4階 社会教育課 TEL0897-52-1628



妻キクとの物語を朝ドラで実現させよう

昨年5月20日、十河さんが国鉄総裁に就任した日を皮切りに、NHK朝の連続テレビ小説（朝ドラ）の放送実現に向けて誘致を開始。実現に向けて、市内はもちろん、県内でも機運を高めることを目的にさまざまなイベントで署名活動を行い、現在7万7,000件の署名が集まっています。今後も活動は続いていきますので、引き続きご協力をお願いします。

▶署名方法 西条市役所や西部支所、各サービスセンターなどに設置の署名用紙に署名

※専用サイトまたは右のQRコードから電子署名もできます！



▶問合せ 市庁舎新館4階

シティプロモーション推進課 TEL0897-52-1682



人より我慢できない男と、
人より不器用な妻の愛情物語の放映を目指します！

紙芝居「十河信二伝」

「つくしんぼの会」の皆さんが、十河さんの偉業を紙芝居で楽しく読み聞かせてくれる、親子に大人気のイベントです！

▶日時 7月14日(日) 11時～

※毎月開催。開催日は毎月広報紙（今月は24ページ）で紹介します

▶場所 四国鉄道文化館北館



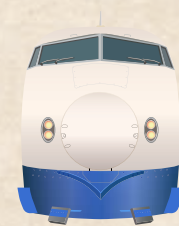
つだゆみさんの漫画

夢の超特急ひかり号が
走った 十河信二伝

マンガ・文：つだゆみ
監修：十河光平
協力：原 朗
西日本出版社



市内の図書館で借りられます！



十河さんをもっと知ろう

知れば知るほどその生き方や考え方が見えてきて、
また違った十河さんが見えてくるかもしれませんよ。

鉄道歴史パーク in SAIJO



北館に展示している
0系新幹線とDF501



十河信二記念館



南館にある大型鉄道ジオラマ

十河信二の業績を多くの皆さんに知ってもらうため、2007年に十河信二記念館と四国鉄道文化館北館を、2014年には四国鉄道文化館南館を伊予西条駅の隣に開館。「鉄道のまち」西条市をPRする観光施設の一つとして、子どもから大人まで、多くの世代に愛されている施設です。

鉄道文化館では初代0系新幹線などの展示や、大型鉄道ジオラマなどを楽しめます。十河信二記念館では、彼の功績をはじめ、「雷オヤジ」として親しまれた人間的な魅力を紹介。イベントも実施中。詳しくはホームページなどをご覧ください。

※毎月のイベントは広報紙（今月は24ページ）で紹介します

●十河信二記念館 TEL0897-47-3855

▶開館時間 9時～17時

▶休館日 水曜日（祝日の場合は翌日休館）
※入館料無料

●四国鉄道文化館

▶開館時間 9時～17時

▶休館日 水曜日（祝日の場合は翌日休館）

▶入館料（北館・南館共通券）

高校生以上：300円

小・中学生：100円

※未就学児は無料

詳細は▶



十河信二記念館館長

加藤圭哉

十河さんをもっと多くの人に知ってほしい

皆さんが利用している「新幹線」の始まりは十河さん。みんなのために、郷土のために、日本のために働いた人がいるというのは西条の誇りです。そのためにはやっぱり「知る」というのが大事な。

鉄道歴史パークは子どもと一緒に鉄道を楽しめる施設。イベントではミニSL乗車会が特に人気です。ぜひ足を運んでいただきたいですね。そしていつかは、四国新幹線を実現できればうれしいですね。